

開校150年を迎える岩手小学校

『^{せい}菁莪』を考察し、岩手小の沿革を振り返ります

菁莪堂（旗本竹中家の教育施設 『菁莪』の始まりか？）

江戸時代、幕府は朱子学を官学とし、各藩校では儒学を中心とした武士教育が盛んであった。岩手の旗本竹中家においても、天保13年(1842年)13代当主竹中重明は、家中の子弟は勿論、近在の子弟も含め文武両道の教導のため、「菁莪堂」を創設し、家臣国井義睦をその堂主に任命した。

国井義睦は、通称を喜忠太、俳号を化月坊・花月坊・梅仙・春香園・山戸亭等と称して、16歳で江戸詰となった。江戸では、剣聖山本竹鳳より天心独明流の刀弓術を学び、若くしてその奥義を極め、ついにはその道統を継承した。又、同時に学問に励み、書道、朱子学等の研鑽を重ね、竹中家の当主から「芸術心掛出精之趣御褒詞」を賜り、後年、蕉門美濃派以哉派15世の道統を継承した。

竹中家が旗本ながら幕末維新の際、各方面に優秀な人材を輩出したのは、菁莪堂における文武両道の教育が実を結んだものといえよう。

『菁莪』とは

『菁莪』は四書五経の詩経に収められた『菁菁者莪』の序文『菁菁者莪、樂育材也、君子能長育人材、則天下喜樂之矣』（菁菁たる莪は、材を育するのを楽しむなり。君子よく人材を長育すれば、則ち天下之を喜樂す）から取り、『この学校に学ぶ子供は、青々と盛んに茂る莪（あざみ）の如く、賢者たる教師の教育によって才能・人徳を大きく伸ばし立派な人物となることを願った』ものと言われています。

四書五経（ししよごきょう）とは、儒教の経書の中で特に重要とされる四書（『論語』『大学』『中庸』『孟子』）と五経（『易経』『書経』『詩経』『礼記』『春秋』）の総称です。

『菁菁者莪』本編

菁菁者莪 在彼中阿 既見君子 樂且有儀
菁菁者莪 在彼中沚 既見君子 我心則喜
菁菁者莪 在彼中陵 既見君子 錫我百朋
汎汎楊舟 載沈載浮 既見君子 我心則休

菁(せい)菁(せい)たるは莪(が) 彼(か)の阿(くま)に在り
既に君子を見れば 楽しみ且つ儀(やすらぐ)有らん
菁(せい)菁(せい)たるは莪(が) 彼(か)の沚(なぎさ)に在り
既に君子を見れば 我が心則ち喜ばん
菁(せい)菁(せい)たるは莪(が) 彼(か)の陵(おか)に在り
既に君子を見れば 我に百(ひやく)朋(ほう)を錫(たまは)ん
汎(はん)汎(はん)たる楊舟(やうしゅう)は 載(ここ)に沈み載(ここ)に浮く
既に君子を見れば 我が心則ち休(よろこば)ん

解釈

茂れるきつねあざみは、川の隈に。
水神の御出ましに、我が心も楽しみ静まらん。
茂れるきつねあざみは、川の水際に。
水神の御出ましに、我が心も喜ばん。
茂れるきつねあざみは、高き丘の上に。
水神の御出ましに、我らの多福を祈らん。
やなぎの舟はゆらゆらと、浮き沈みしつつ来る。
水神の御出ましに、我が心も喜ばん。

背景

本篇は、河に棲む水神を祀る詩である。
水辺の「菘(あざみ)」は、水神の依代であり、この植物に水神を憑依せしめるのである。
「在彼中阿」「在彼中沚」「在彼中陵」と、章毎に「菘」の生える場所を替えて謡うのは、水神が遙か彼方の河の隈から水際を経て、小高い丘の上へと、徐々に近づいてくることを表すものである。

[明治書院『新釈漢文大系⑤ 詩経』石川忠久著]

岩手小学校の沿革

菁莪義校(岩手小学校の開校)

明治5年(1872年)学制発布により、明治6年(1873年)1月、岩手村、大石村及び伊吹村の三ヶ村が共同して、旧竹中家道場「菁莪堂」を仮校舎に充て開校し、「菁莪義校」と称した。

菁莪学校

明治8年(1875年)伊吹村は分離し、岩手村及び大石村が共同して校舎新築に着手、明治9年(1876年)に学令に基づき「菁莪学校」と改称した。

校舎は、木造二階建て・寄棟造瓦葺で、教場は8室、屋根に棟屋をもち、菁莪堂の唐破風屋根のポーチ(洋風建築の車寄せ)が移築された。

岩手小学校

明治14年(1881年)学制改革により、菁莪学校を岩手小学校と改称、高等、中等、下等の三科を設置した。高等科及び中等科の区域は岩手、大石、伊吹、野上の四ヶ村であった。

明治19年(1886年)学制改革により、尋常、簡易の二科となり、校下は岩手、大石の二ヶ村となる。

(伊吹村、野上村の二ヶ村で伊吹小学校(下等科のみ)が存在した?)

(明治22年(1889年)伊吹村と野上村が、統合され相川村となる)

組合立岩手尋常高等小学校

明治26年(1893年)学制改正により、岩手村、大石村、相川村の三村による組合立の、岩手尋常高等小学校と改称。尋常科3学年・高等科1学年？

明治28年(1895年)入学式が始まる

明治29年(1896年)1泊2日の修学旅行が始まる



岩手村立岩手尋常高等小学校

明治30年(1897年)町村分合により、相川村の伊吹区と、大石村は岩手村に統合されたため、岩手村立の尋常小学校となり伊吹区も校下となった。

明治41年(1908年)学制改正により、尋常科を6学年、高等科は2学年と改めた。

明治44年(1911年)高等科が3学年となる。

昭和2年(1927年)弁当持参者に仏教会が味噌汁を提供。学校給食のさきがけ。

[校舎改築]

明治34年(1901年)校舎改築落成式を挙行。玄関ポーチは、明治9年(1876年)建築の「菁莪学校」の校舎より移築した。制定校歌も発表された。飯塚八百太(作詞と思われる)高井徳造(作曲と思われる)の両氏が作成した。(歌詞?、楽曲不明)

昭和2年(1927年)校舎改築落成式を挙行。

岩手国民学校

昭和16年(1941年)国民学校令により、岩手尋常高等小学校を岩手国民学校と改称。

岩手村立岩手小学校

昭和22年(1947年)学制改革により、岩手国民学校を岩手村立岩手小学校と改称。

現在の小学校6年制、中学校3年制の確立

垂井町立岩手小学校

昭和29年(1954年)町村合併により垂井町立岩手小学校と改称。

昭和34年(1959年)体育館落成

昭和38年(1963年)新校歌を公募し制定

昭和39年(1964年)プール落成

昭和40年(1965年)制服制定

昭和54年(1979年)校舎落成(幼稚園舎と菁莪記念館も同じ時期に落成)

校舎改築に伴う余話

昭和51年(1976年)校舎改築が決議され、玄関ポーチは「新建築校舎にふさわしくない」と解体されることとなったが「菁莪堂以来の由緒ある建造物であるから保存して欲しい」との請願の結果「菁莪記念館」の玄関ポーチとして存続が決まり、校舎改築に合わせて菁莪義校の校舎をモデルとして「菁莪記念館」が建設された。

昭和62年(1987年)体育館落成

平成 6年(1994年)プール落成

令和 5年(2023年)開校 150年

小学校より菩提山を望む(令和2年8月)



菁莪義校をモデルに建てられた菁莪記念館



岩手小学校校歌の変遷

昭和20年まで歌われていた校歌

岩手小学校々哥

- 一、 明神嶽は巖として
権威も著るき城の跡
齊々多土の菁莪校
是れぞわれらの濫觴校

- 二、 伊吹 崑崎 津嶋聴
稜威も高き宮々は
永久にわれらの岩手村
幸はえたまえ護神

- 三、 五條の校訓慎みて
光榮菁莪の名に恥ぬ
學びの道に励みつゝ
出でや尽くさむ御代の為

昭和38年に制定された現在の校歌

岩手小学校校歌

- 一、 歴史に はゆる城跡に
菁莪の誉れ うけつぎて
ひごとに 明るく はげみ合う
我等は 岩手の 小学生 小学生

- 二、 むらさき におう 伊吹山
流れてつきぬ 相川の
高きは 我等の 理想なれ
清きは 我等の 姿なれ 姿なれ

- 三、 若木のみどり 栄えゆく
希望を 胸に だきしめて
心と体を きたえつつ
朝夕 学びに いそしまん いそしまん

昭和22年学制改革に伴い、岩手国民学校を岩手村立岩手小学校と改称された以降上記左側の校歌は歌われることがなかったようだ。

上記右側の校歌が制定されるまで校歌のない時代があったようだ。